

現在、わたしたちは暮らしの中で、様々な形や色の衣服を身にまとっていますが、弥生時代の人々は、いったいどのような服装をしていたのでしょうか？

みなさんはどのようなイメージを持っていますか？ 教科書にある絵等、いろいろなところで目にする弥生人は、その多くが、みな同じような種類の白っぽい布を体にまとっている姿です。

実は、全国各地の遺跡の調査や研究から、弥生人たちは意外とおしゃれで、様々な色の装飾品を身に着け、染物により様々な色の衣装を身にまとっていたことが分かってきたのです。今回は、当時の弥生人たちが行っていたと思われる草木染めについて体験してみることにしましょう。



クイズ 弥生時代の遺跡から見つかった草木染めの布の色は、次のうちどれでしょう？
①緑色 ②赤色 ③黄色 ④青色 ⑤茶色 ⇒ ()

妻木晩田遺跡にある植物を使って、草木染めをしてみましょう。

チャレンジしよう

「草木染め」に挑戦しよう！

【準備】 もめんのハンカチ、なべ、ボール、豆じる、灰じる、わりばし、輪ゴム、アイロン



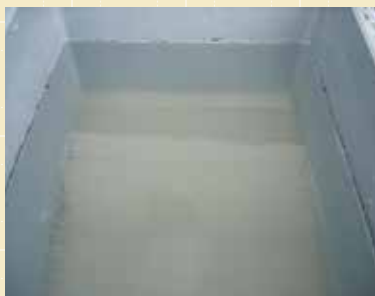
① 染めものに使う布を下ゆでして、のりやよごれを取り除きます。



② 豆じるにひたし、たんぱく質をしみこますことで、染めやすくします。



③ ヤシャブシ、くりイガ、ススキ等の材料を15分ほどにて、染色液を作ります。



④ 灰と水を混ぜて、うわすみ液を取り出し、ばいせん液を作ります。



⑤ 数分間、染色液にひたして、取り出したら、水洗いをします。



⑥ 数分間、ばいせん液にひたします。⑤と⑥を数回くり返します。

⑦ 布を干し、アイロンを当てたら完成です。

- ※ 事前にひもや輪ゴムで布の一部を結んでおくと模様ができます。
- ※ 灰じるは、ミョウバンを溶かした水で代用することができます。

まめ ち しき 豆知識 1 む き ぼん だ 妻木晩田でとれる ぐ さ き そ 草木染めの ざ い り ょ う 材料

今回の草木染めで使用したヤシャブシ、クリいが、ススキの他にもヤマザクラ、ヤマグワ、クズ、ドングリ、ヨモギ、クサギの実等があります。多くは茶色系の色に染まりますが、ヨモギは緑色、クサギは青色に染まります。また、妻木晩田遺跡にはありませんが、きれいな赤色を出すアカネやあざやかな黄色になるキハダ等の材料は大山で採取することができます。ちなみに、みなさんの身近な染物の材料にたまねぎ、緑茶、コーヒー、紅茶、マリーゴールド等もあります。おうちでも同じ方法で草木染めが楽しめるんですよ。



豆知識 2 弥生時代の草木染め

中国の古い歴史書に、赤や青の織物を中国におくり物としたという記録が残されており、弥生時代に草木染めが行われていたと推測できます。

実際に佐賀県の吉野ヶ里遺跡では日本茜で染められた赤い布が出土しています。しかも、同じ書物には、男子は、左の図のように、頭にハチマキをまき、布を体に巻きつけたり、かたからかけたりしていたのではないかと読み取れる記述があります。そして、青森県の砂沢遺跡から出土した、弥生時代の土偶は、かみ型も短く逆立て、耳かざりをしていたのです。当時の弥生人は、意外とおしゃれだったのでしょうか。ちなみに、その土偶は2000（平成12）年に小学4年生が発見したのですよ。

豆知識 3 かい 貝をつかって ぶを 紫に染める

佐賀県の吉野ヶ里遺跡で発見された銅剣には、紫色に染められた布がはり付いていました。色の成分を調べたところ、その布は、貝を使って染めたものであることが分かったのです。これは貝紫染めといって、海でとれる、イボニシ貝やレイシ貝の中にふくまれるパープルゼンという部分を取り出して布を染める方法です。



当時は、貝紫の染物は貴重で、紫色は高貴な色として力のあるものが身にまとったとされています。夏になるとこれらの貝は、妻木晩田遺跡の近くの海岸の岩場でも採取することができます。

※みなさんのハンカチは、どんな色やもように染まりましたか？ 今日「草木染め」体験で発見したことやわかったこと等、感想をまとめてみましょう。
